

奄美市SDGs推進プラットフォーム

第Ⅰ回ワークショップ報告

日時：令和6年7月6日（土）14：00～16：30

場所：奄美市役所5階会議室

参加者：21名



「農林水産物の活用を考える」をテーマに、参加者全員で奄美の農林水産物の未来を描きました。生産者や加工者、料理人の他、異なる分野の方々、高校生が参加し、様々な視点で活発なワークショップが開催されました。

①NPO法人奄美食育食文化プロジェクトの久留氏による島野菜に関するこれまでの取組状況や課題を説明いただき、次に三太郎峠茶屋祭ばやしの中沢氏による「こーしゃまん」の活用について説明をいただいた後に、4班に分かれてワークショップを開催した。

②奄美版SDGsについてのワークショップを行い、もSDGs目標の①、⑩、⑮の目標標記について奄美らしく親しみやすい目標を設定するため、個人で考え、班で考えをまとめ発表を行った。



奄美市SDGs推進プラットフォームで行うワークショップは、市への政策提言を行うものではなく、参加いただいた皆様が様々な立場・角度から未来志向で自分ごととして考え、官・民・個人の自発的な取り組みの参考にしていただくことを目的としています。

また、目標達成に向け、パートナーシップの構築も目的としています。

★ワークショップ①

奄美の農林水産物を考える



A班

(1) 奄美の地域資源（農林水産物）の未来はどうあるべきか（理想）

- ・ 島外の人から求められる
- ・ 島内の人々が魅力に気付いている状態
- ・ 地産地消
- ・ お土産コーナーの農林水産物バージョンがある
- ・ 先人の方々からの知識の伝達継承が行われている。
- ・ 今ある貴重な農林水産物の保存、ルールや帰省が整備されている。



(2) (1) に対して現状をどのように考えるか。課題は何か。

- ・ 新鮮な食材をそのまま消費者に届ける仕組みづくりが足りない
- ・ 継続性
- ・ まとまりがない、連携できていない



(3) 課題解決のためにどのような取り組みをするか。

- ・ 農林水産、異業種が集まれる場と仕組みづくり（販売、加工、発送、食事提供など）
- ・ 若い世代、地域を巻き込んで一緒に
- ・ 一度にやりすぎない

★ワークショップ①

奄美の農林水産物を考える

B班

(1) 奄美の地域資源（農林水産物）の未来はどうあるべきか（理想）

- ・ 台風の時でも自給自足ができる、一定の生産量の確保
- ・ 観光客にも島野菜に触れ、食べてもらう
- ・ 地域資源の情報をたくさん発信



(2) (1) に対して現状をどのように考えるか。課題は何か。

- ・ 地域の中で「生産→消費→伝える」のサイクルがなく、安定していない
- ・ サイクルを土台にし、付加価値を付けることができていない



(3) 課題解決のためにどのような取り組みをするか。

- ・ 品質を確かにする
- ・ 個々がより発展し、集落で相互の関係を築く。（結いの力）

C班

(1) 奄美の地域資源（農林水産物）の未来はどうあるべきか（理想）

- ・ 稼げる農業



(2) (1) に対して現状をどのように考えるか。課題は何か。

- ・ 生産量と生産者が少ない
- ・ 価格差
- ・ 付加価値をどうつけるか



(3) 課題解決のためにどのような取り組みをするか。

- ・ 小規模生産者との連携
- ・ 作物の選定

★ワークショップ①

奄美の農林水産物を考える

D班

(1) 奄美の地域資源（農林水産物）の未来はどうあるべきか（理想）

- ・ 自給率アップ
- ・ 安心して作れて、安心して使える島野菜



(2) (1) に対して現状をどのように考えるか。課題は何か。

- ・ 売り場がない
- ・ 作っても売れない
- ・ 葉野菜は作ることが難しいが、値が付かない
- ・ 使い方が分からない（消費者）
- ・ 安定供給が心配
- ・ 音頭を取る人が必要
- ・ 推奨物以外はサポートが受けにくい



(3) 課題解決のためにどのような取り組みをするか。

- ・ 既存の売り場にアプローチする
- ・ 学校給食で使う→島野菜料理を知ってもらう

★ワークショップ②

奄美版SDGsの目標標記を考える

目標	国連が定める目標	奄美版の目標提案
1	貧困をなくそう	①「働きたい」に「働ける環境」を整えよう ②程よく豊かな暮らしができる島 ③結の精神～シマの経済をまわしていこう～ ④たますわけ
10	人や国の不平等をなくそう	①結い（ゆらい）唄い踊れる町 ②多様な考えを理解できる柔軟性 ③結とゆらいの島
15	陸の豊かさも守ろう	①子供達の木登りを見守ろう ②自然を知り触れ守ろう ③一日一拾～世界自然遺産をいつまでも～